

第4章 プログラムの効果と提言

1. 裨益効果

「ボ」国の食糧事情をみると、輸入に依存する割合が高く、7,593千人（1996年）の国民全体の食糧を自給するに至っていない。これは、食糧作物の中心的生産者である高原・渓谷地域にいる中小農民の生産技術のレベルが低く、経済力もないという問題があるとともに、農業資機材の利用が少く、所有耕地の活用が十分行われていないことに起因している。

今年度計画は、高原・渓谷地域の5県の生産者に対して肥料の更なる利用を図り、食糧増産を達成することを目的としている。各対象作物の増産効果は表4-1のとおり、ジャガイモの単収は5,000kg/haから8,500kg/haに、トウモロコシは1,600kg/haから2,000kg/haに、小麦は800kg/haから1,200kg/ha、コメは1,000kg/haから1,500kg/haにそれぞれ単収増加を見込んでいる。

これら食糧増産によりもたらされる中小農民の収入改善が、農民の都市部への流入を防ぎ、同国の社会的安定にも貢献するものと期待される。

また、同国では見返り資金の積み立てが順調に行われており、この見返り資金が計画的に道路、灌漑、橋梁の建設に使用されることにより、同国の貧民対策に役立つという効果も大きい。

表4-1 今年度計画の予想効果

作物	地域	時期	作付面積(ha)	単収(kg/ha)	生産量(t)
ジャガイモ	高原地域	現在	85,000	5,000	425,000
	渓谷地域	実施後	117,350	8,500	997,475
トウモロコシ	渓谷地域	現在	200,000	1,600	320,000
	熱帯地域	実施後	230,000	2,000	460,000
小麦	高原地域	現在	90,000	800	72,000
	渓谷地域	実施後	100,000	1,200	120,000
コメ	熱帯地域	現在	100,000	1,000	100,000
		実施後	125,000	1,500	187,500

(出典：2001年要請関連資料)

2 . 提 言

2 K R の実施機関である PL-480 は実施手続きについては熟知している。今後は農村開発基金と農業関連分野の監督官庁である農牧省のより強固な連携により、2 K R の国家食糧増産計画における位置付けが明確にされると考えられる。加えてエンドユーザーまでのモニタリングシステム及び効果評価システムの構築・実施を図っていく必要がある。

また、同国の播種時期が夏（10月～11月）、冬（4月～5月）の2回であるため、肥料の到着時期を4月又は9月頃になるように配慮することが望ましい。